

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語 198人	社会 198人	数学 189人
	理科 190人	英語 188人	

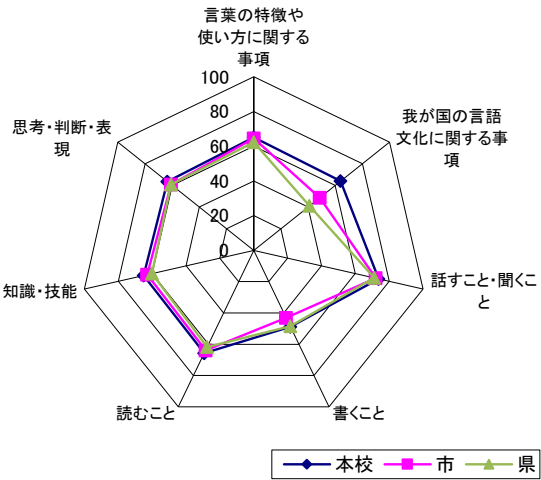
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	65.1	64.5	62.3
	我が国の言語文化に関する事項	64.0	48.7	41.1
	話すこと・聞くこと	73.8	72.1	71.2
	書くこと	48.8	43.1	48.5
	読むこと	65.7	63.9	61.8
観点	知識・技能	65.0	62.9	60.1
	思考・判断・表現	63.5	60.8	60.8



★指導の工夫と改善

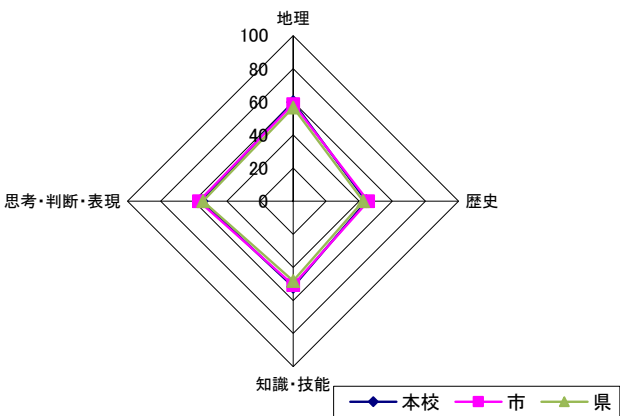
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○平均正答率が65.1%で県平均より2.8ポイント上回っている。 ○文節の関係について答える問題の平均正答率は7.5ポイント上回っている。 ●「祈願」の漢字を正しく読む問題の平均正答率は8.0ポイント下回っている。無解答率は1.5ポイント上回っている。	・文法事項の理解や確認を、授業中に機会をとらえながら繰り返し取り組んでいく。 ・既習した漢字の読み書きは、授業で小テストを取り入れて、継続的に取り組んでいく。
我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率が64.0%で県平均より22.9ポイント上回っている。 ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題の無解答率は1.4ポイント下回っている。 ●無解答率は県平均より低いものの0.0%ではない。	・歴史的仮名遣いは引き続き反復練習をして、定着を図っていく。
話すこと・聞くこと	○平均正答率が73.8%で県平均より2.6ポイント上回っている。 ○自分の考えや根拠が明確になるように、話の構成を考える問題の平均正答率は5.4ポイント上回っている。 ●必要に応じて記録しながら話の内容を捉える問題では無解答率0.0%ではあるが、平均正答率は0.4ポイント下回っている。	・自分の考えを述べることや、相手との考えを比較し自分の考えに結び付ける授業展開を取り入れる。 ・授業の中で、話し手の意図を理解しながら聞き取る活動やメモを取る活動を取り入れる。 ・話し合い活動や意見発表の場を取り入れ、相手にわかりやすく伝える工夫について考える機会を増やしていく。
書くこと	○平均正答率が48.8%で県平均より0.3ポイント上回っている。 ○自分の考えを根拠を明確にして書く問題の平均正答率は3.0ポイント上回っている。 ●読み取った内容を明確にして書く問題の平均正答率は1.7ポイント下回っている。無解答率は7.4ポイント上回っている。	・自分の考えを根拠を明確にして書く習慣を身に付けさせる。 ・読み取った内容を大まかにとらえたり要約したりする活動を取り入れる。 ・図表を見て特徴的なものを読み取る活動を取り入れる。
読むこと	○平均正答率が65.7%で県平均より3.9ポイント上回っている。 ○文章の内容について叙述を基に捉える問題の平均正答率は10.6ポイント上回っている。 ●場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈する問題の平均正答率は0.5ポイント下回っている。無解答率は2.8ポイント上回っている。	・文学的文章を読解するときには、場面と場面の関係性や描写と心情をつなげて指導し、読みとり方を理解させていく。

宇都宮市立豊郷中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	59.9	58.7	56.6
	歴史	44.3	45.4	42.4
観点	知識・技能	51.7	50.7	48.2
	思考・判断・表現	55.3	56.9	54.4



★指導の工夫と改善

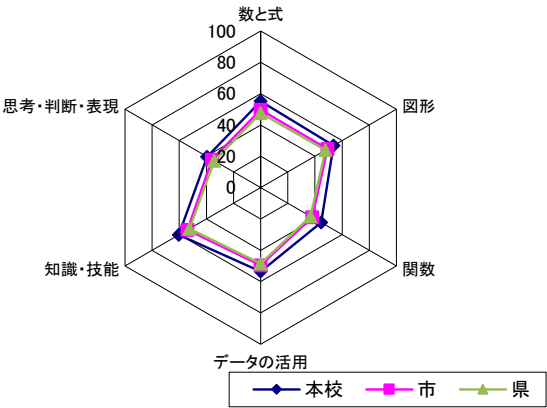
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	○平均正答率は、県の平均より2.6ポイント、市の平均より0.1ポイント上回り、良好である。 ○知識・技能の観点別正答率は県の平均より3.5ポイント、市の平均より1.0ポイント上回り、良好である。 ○●思考・判断・表現の観点正答率は、県の平均より0.9ポイント上回っているが、市の平均より1.6ポイント下回っており、課題が見られる。 ○選択式の問題正答率は県も市も平均をすべて上回っており良好である。 ○●記述式の問題正答率は県平均を上回っているが、市平均より0.3ポイント下回っており課題が見られる。	・基本的な内容の定着は見られるが、応用問題の対応にまだ課題が残る。資料を読み取り、自分の考えを文章として表現する学習活動を増やし、復習を効果的に行うことで、より深い思考力や表現力を培っていく。 ・地図やグラフ、資料の読み取り方については、読み取るポイントを授業で丁寧に指導するとともに、既習事項を生かして考えるように、授業で意識して指導する。また、自分の考えを文にしてまとめる活動を増やすことで、表現力を向上させていく。 ・地図と関連させて資料を読み取る力や複数の資料を読み取る力が大切になるので、読み取るポイントを授業で教えるなどして、グラフや地図を活用する思考力を育てる。また、地図帳を効果的に利用するようにする。 ・授業の導入で身近な社会に関する話題やニュースを取り入れるなどして、一般的な教養や知識を広げ、興味関心を高めることで、地理的分野に苦手意識を持たせず、主体的に学習に取り組む態度を向上させていく。
歴史	○●平均正答率は、県の平均より1.9ポイント上回っているが、市の平均を1.1ポイント下回っており課題が見られる。 ○知識・技能の観点別正答率は県の平均より3.5ポイント、市の平均より1.0ポイント上回り、良好である。 ○●思考・判断・表現の観点正答率は、県の平均より0.9ポイント上回っているが、市の平均より1.6ポイント下回っており、課題が見られる。 ○選択式の問題正答率は県も市も平均をすべて上回っており良好である。 ○●記述式の問題正答率は県平均を上回っているが、市平均より0.3ポイント下回っており課題が見られる。 ●短答式の問題正答率は県平均も市平均も下回っている。「朝貢」という言葉を古代の日本(倭)の対外関係と結びつけて理解していない生徒が多かったことが要因であると考えられる。	・今後も繰り返し授業の中で復習を取り入れ、各時代ごとの変化や特徴を捉える力を養っていく。 ・文献資料や地図資料の活用を広げ、歴史的事象のつながりや多角的な視野で物事を捉える見方を培っていく。 ・資料や年表を活用する習慣をつけさせることで、海外との関係や歴史の流れをつかめるようにする。 ・資料から既習事項を生かして考えるために、思考するポイントを教える授業を効果的に実施することで、資料を活用して思考する問題に対応する学力を伸ばしていく。 ・資料から思考し、記述する問題に対応するためには、読解力や表現力も必要になるので、自分の考えを記述させる授業を効果的に実践する。

宇都宮市立豊郷中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	55.1	49.7	47.6
	図形	53.6	49.2	47.7
	関数	44.6	38.0	36.8
	データの活用	53.6	49.6	48.5
観点	知識・技能	60.4	54.0	52.5
	思考・判断・表現	39.4	35.8	34.1



★指導の工夫と改善

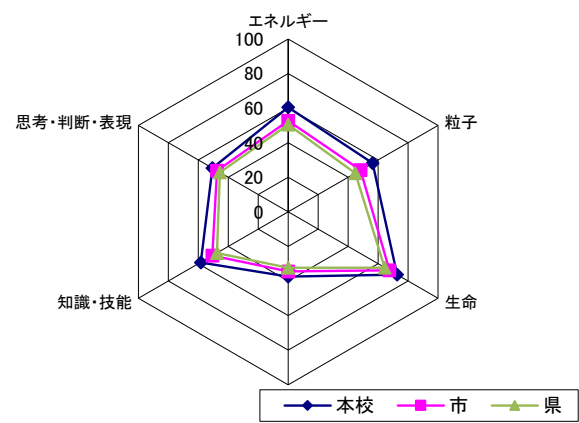
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○平均正答率は市平均より5.4ポイント、県平均より7.5ポイント高い。 ●与えられた情報をもとに、数量の関係や法則などを文字を用いた式で表す問題の正答率が市平均、県平均を上回っているが差が少ない。 ●不等式が表していることを説明する問題で市平均を1.1ポイント下回っている。	・基本的な問題を繰り返し実施し基本の定着を続けて図っていきたい。 ・ペア、グループ学習で説明し合う活動を取り入れることで理解を深めさせるとともに、説明する力がつくように指導していく。
図形	○平均正答率は市平均より4.4ポイント、県平均より5.9ポイント高い。 ●おうぎ形の面積をもとに、おうぎ形と半径が等しい円の面積を求める問題、立方体から三角錐を切り取った立体の体積を求める問題の正答率が市平均、県平均を上回っているが差が少ない。	・長さ、面積、体積を求める問題を繰り返し実施し、基本の定着を図っていく。 ・デジタル教科書を活用することで図形の実感を伴った深い内容の理解ができるような活動を取り入れて指導を行う。
関数	○平均正答率は市平均より4.4ポイント、県平均より5.9ポイント高い。 ●与えられた条件から、答えを求める問題、会話文を読んで、反比例の式に表す問題の正答率が市平均、県平均を上回っているが差が少ない。	・式、表、グラフについての基本的な問題について繰り返し学習することで引き続き基礎学力を身につけさせていきたい。 ・与えられた条件から何を求めるかについて、式、表、グラフの3つの考えを使って考えることができるようにペア学習等を通して指導していきたい。
データの活用	○平均正答率は市平均より4ポイント、県平均より5.1ポイント高い。 ●度数分布表から、ある階級までの累積度数を求める問題、ヒストグラムについて、「必ずいえること」を話している生徒を選ぶ問題の正答率が市平均、県平均を上回っているが差が少ない。	・基本的な問題を繰り返し実施し基本の定着を続けて図っていきたい。 ・ペア学習等でデータの活用の用語の意味について、学び合いの学習を通して定着を図っていく。

宇都宮市立豊郷中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	60.5	52.7	50.5
	粒子	56.4	48.3	44.9
	生命	72.7	67.6	64.4
	地球	37.4	34.4	32.3
観点	知識・技能	58.4	50.7	47.6
	思考・判断・表現	50.7	47.6	45.6



★指導の工夫と改善

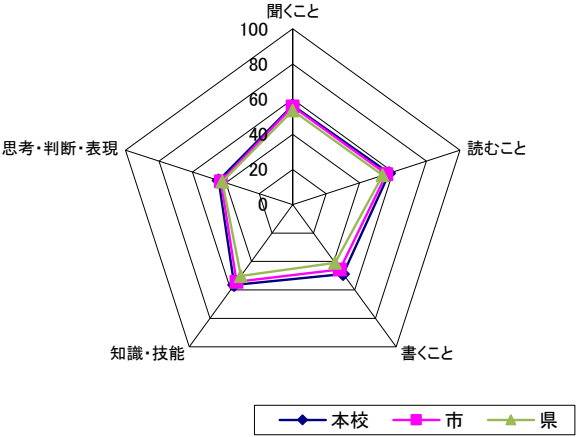
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○実像の名称を問う問題では、市平均に比べて約14ポイント高く、基礎基本が定着している。 ●虚像の作図の正答率が50%を下回っていることから、現象への理解に乏しい。	基礎基本は定着しているため、引き続き基礎基本を徹底した指導を続けるとともに、身近な現象と関連づけ、理科への興味関心を高める必要がある。
粒子	○状態変化や蒸留に関して実験方法を理解し、結果を読み解き、考察することができている。 ●質量パーセント濃度のような計算を伴うものには苦手意識があると思われる。	計算を要する問題に関しては、各々のレベルにあった問題を解くことで、少しずつ理解力を高めていく必要がある。
生命	○共通点と差異点に着目して、分類するということがよくできている。 ●節足動物の特徴を理解できておらず、市平均よりも低い正答率かつ50%を下回っている。	共通点や差異点をもとに分類するということに意識を向けさせながら、各生物の特徴をしっかりと整理できるようにする。
地球	○語句などの基礎基本の定着はできている。 ●他の分野に比べて、全体的に正答率が低くなっている。特に、計算を伴う問題や時間的・空間的な視点から考える問題が苦手だと思われる。	時間的・空間的な視点で捉えることに苦手意識をもつ生徒が多い。教科書の文章のような説明だけでなく、立体的な模型やシミュレーションを通して、物事を多面的に見ることができるようになるように指導を行っていく必要がある。

宇都宮市立豊郷中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	56.4	55.8	53.5
	読むこと	57.7	56.0	53.8
	書くこと	48.8	45.6	40.9
観点	知識・技能	56.5	54.3	50.2
	思考・判断・表現	44.3	42.9	42.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○平均正答率は56.4%と県の平均を2.9ポイント上回った。 ○情報を正確に聞き取り、絵の内容を適切に表している英文を選択する問題の中でも、場所を表す前置詞の知識を問う問題では、正答率は82.5%と高く、県の平均を10.3ポイント上回った。 ●情報を正確に聞き取り、絵の内容を適切に表している英文を選択する問題の中でも、日付のたずね方の知識を問う問題では、正答率は44.2%と低く、県の平均を2.7ポイント下回った。 ●カナダに住む中学生からのビデオメッセージを聞き、たずねられたこと(自分の住んでいるところで食べられるもの)に対して、自分の考えを簡潔に書く問題では、無解答率が18.6%と高かった。	・音読指導を通して、単語や文の意味を理解した上で、正しく発音できるようにする。 ・デジタル教科書を活用し、より多くのリスニング問題に取り組み、概要や要点を理解する力の向上を図る。 ・ウォームアップとして継続的にスモールトークを行うことで、内容を理解する力と質問に答える力の向上を図る。 ・T.Tの利点を生かし、授業中に教師同士(ALTとJTEもしくはJTE同士)の会話を聞かせる機会を増やし、自然な対話に慣れさせる。
読むこと	○平均正答率は57.7%と県の平均を3.9ポイント上回った。 ○短い対話文を読み、空欄に当てはまる適切な人称代名詞を選択する問題では、正答率は54.3%で、県の平均を13ポイント上回った。 ●アメリカから来る転入生のために書かれた学校生活を説明する文章について、内容を正確に読み、空欄に当てはまる適切な語を書く問題と、読んで概要を捉え、適切なものを選択する問題では、正答率はそれぞれ県の平均を4.9ポイント、2.3ポイント下回った。 ●アメリカから来る転入生のために書かれた学校生活を説明する文章について、内容を正確に読み、空欄に当てはまる適切な語を書く問題では、無解答率が23.4%と高かった。	・教科書本文の内容を扱う活動を工夫する。例えば、概要を捉える力を向上させるために、個人で一度全体を読んだあとに、他の生徒にあらすじを話させたり、適切なタイトルを付けさせたりする。また、Q&AやTorFを行い、内容を正確に読み取る練習をさせる。 ・手紙やメール、また、他の生徒のライティング作品などの、相手がいる読み物教材を使い、それを読んで返事やコメントを書く活動を行う。
書くこと	○平均正答率は48.8%と県の平均を7.9ポイント上回った。 ○一般動詞の三人称単数現在形の文を正確に書く問題では、正答率は57.5%と県の平均を14.5ポイント上回った。 ●イギリスの中学生からのメッセージを読み、それに対して自分の町のお気に入りの場所について説明するまとまりのある文章を書く問題では、正答率は8%で、県の平均を1.4ポイント下回った。 ●イギリスの中学生からのメッセージを読み、それに対して自分の町のお気に入りの場所について説明するまとまりのある文章を書く問題では、無解答率が34%と高かった。	・文法や語法の理解とその定着のために、教師は生徒が使用した英語の間違いを直したり、繰り返しの練習に取り組ませたりする。 ・単元末課題の設定を工夫し、まとまりのある文章で自分の考えを表現する活動を増やす。 ・手紙やメール、また、他の生徒のライティング作品などの、相手がいる読み物教材を使い、それを読んで返事やコメントを書く活動を行う。

宇都宮市立豊郷中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」という質問項目についての肯定割合は70.1%、「家で、学校の授業の予習をしている」という質問項目についての肯定割合は52.3%、「家で、学校の授業の復習をしている」という質問項目についての肯定割合は82.7%、「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」という質問項目についての肯定割合は70.7%で、県の平均をそれぞれ、4ポイント、10.5ポイント、11.8ポイント、8.1ポイント上回っており、家庭での学習習慣が身に付いている様子がうかがえる。また、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」という質問項目についての肯定割合は64.4ポイントで県の平均を8.7ポイント上回っており、自主的な学習習慣が定着してきている。	
○「本やインターネットなどを利用して、勉強に対する情報を得ている」という質問項目についての肯定割合は76.9%で、県の平均を6.7ポイント上回っている。このことは図書の利用や1人1台端末の活用が積極的に行われていることの表れと捉えられる。	
○「学校のきまりを守っている」という質問項目についての肯定割合は99%、「自分はクラスの人の役に立っていると思う」という質問項目についての肯定割合は72.8%で、県の平均をそれぞれ2.4ポイント、7ポイント上回っており、落ち着いた環境で互いを認め合いながら生活しているといえる。	
○「家の人と将来のことについて話さことがある」という質問項目についての肯定割合は73.3%で、県の平均を7.6ポイント上回った。また、「家の人と学習について話をしている」という質問項目についての肯定割合は83.2%で、県の平均を4.5ポイント上回っており、家庭において、将来のことや学習についてのコミュニケーションが図られていることがわかる。	
●「生活時間を上手に使うことを、心がけている」という質問項目についての肯定割合は71.1%である。一方、「ふだん（月～金曜日）1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか」という質問項目について23%の生徒が3時間以上と回答している現状がある。これは、勉強時間、就寝時間等と直結するものであり、学校と保護者の双方から生活時間の見直しについてはたつきかけしていく必要がある。	
●「自分のよさを人のために生かしたいと思う」という質問項目についての肯定割合は89.5%、「自分もっている能力を十分に発揮したい」という質問項目についての肯定割合は93.7%で、県の平均とほぼ同等の結果となっている。今後、道徳教育をはじめとした教育活動の各場面で自己肯定感を更に高められるような働きかけをしていきたい。	

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて次の目標達成を目指す。 ・言語活動を通し、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を図る。 ・学力向上を目指し家庭及び地域・学校園と連携した「豊郷の豊かな学び」の実現を目指す。	①指導目標を明確にし、指導内容の充実に努める。 ・評価計画の見直し、指導と評価の一体化についての評価の研究推進 ・授業開始時の「学習課題」の掲示および授業終了時のまとめ・振り返りの工夫 ②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。 ・学習形態・学習過程・学習指導の工夫 ・「宇都宮モデル」(「はつきり！じっくり！すっきり！」)を活用した授業改善 ・1人1台端末を効果的に活用した授業の工夫 ③望ましい学習態度の育成に努める。 ・自ら学びに向かう力をはぐむための家庭学習の習慣化 ④「グローバル社会」に主体的に向き合う教育の推進に努める。 ⑤各教科・領域・家庭・地域との連携に努める。	①について、「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」という質問への肯定的な回答の割合は87.5ポイントで、県の平均を6.1ポイント上回った。 ②について、「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」という質問への肯定的な回答の割合は94.7ポイントで、県の平均を5.5ポイント上回った。 ③について、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」という質問への肯定的な回答の割合は64.4ポイントで、県の平均を8.7ポイント上回った。 ④について、「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」という質問への肯定的な回答の割合は75.9ポイントで、県の平均を9.5ポイント上回った。 ⑤について、「家の人と学習について話をしている」という質問への肯定的な回答の割合は83.2ポイントで、県の平均を4.5ポイント上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
【国語】読み取った内容を明確にして書くことが難しい。 【社会】資料から判断し、記述する問題に答えることが難しい。 【数学】式が表していることを説明する力が必要である。 【理科】計算を伴う問題や時間的・空間的な視点から考える問題に答えることが難しい。 【英語】得た情報をもとに、自分のことについて説明するまとまりのある文章を書くことが難しい。 【質問調査】「新聞を読んでいる」という質問への肯定的回答の割合は4.7%にとどまっている。 ・ふだんの学校の授業以外での、1日の読書時間が10分以下の生徒が48.2%と半数近い。 ・1か月の読書量が1冊に満たない生徒が16.8%いる。	・言語活動を通し、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力などの育成を図る。	・あらゆる授業等において、自分の考えを理由とともに話し、話したことをまとまりのある文章で書く活動を取り入れる。 ・あらゆる授業等において、資料から物事の特徴を捉えたり、比較・検討したりして、わかったことや考えたことを話したり書いたりする活動を取り入れる。 ・新聞を活用した家庭学習のやり方を提案する。 ・ブックトークや図書委員会の活動と連携して、読書をする楽しさや有用性について伝える。